

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270103999		
法人名	株式会社 咲都		
事業所名	グループホーム 和ごころ(いろり棟)		
所在地	長崎市白鳥町2-26		
自己評価作成日	平成27年12月21日	評価結果市町村受理日	平成28年6月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	-----------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	平成28年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者が孤立しないよう安心して笑顔で生活できるよう支援している。 ・比較的自由に生活して頂いている。 ・毎月勉強会を行い、認知症全般の知識の向上に取り組んでいる。 ・虐待防止に務めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>理念は、地域に根差した事業所になるため「認知症のプロになる」思いで作られ、和(輪)のように丸く、穏やかな心のこもった質の高いサービスの提供を目指している。自治会に加入し、役員や評議員を引き受け、地域の防犯連絡所になるなど一翼を担っている。又、入居時には帰宅願望が強く不穏だった利用者が、職員の支援で信頼関係が出来、穏やかになるなど理念の実践が見られる。職員が互いに声掛けし、注意し合えるチームワーク構築は看取りへの取組みにも繋がり、過去3年間で5例の事例があり、最期まで利用者や家族に寄り添う姿勢は家族の安心と信頼に繋がっている。食事は手作りであり、利用者を買物し、旬の食材が手に入れば、献立を変更したり、ドライブで団子屋に立ち寄るなど日常生活がある。利用者の「ここは幸せ」という言葉に理念の具現化が見られる事業所である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	業務に入る前に宿直室に掲示している理念を読み、業務に入るようにしている。理念を基本に会議や勉強会を行っている。	理念は職員の目に触れる場所に掲示し、新人には新人研修で説明している。会議でも理念を振り返り、理念の一部である「認知症のプロになろう」を目標に、内部・外部研修を行い、質の高いケアの実践に努めている。理念を支援の根幹に据え、日々、具現化に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への加入。運営推進会議への参加協力を得ている。近隣の病院や商店を利用し交流を図っている。	自治会に加入し、評議員や役員を努め、地域の防犯連絡所になるなど役割を担っている。住民から野菜の差入れがあったり、夏祭りへ参加し盆踊りや出店での買い物なども利用者の楽しみの一つとなっている。又、住民から介護相談を受けるなど、地域に密着した事業所として貢献している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人に向けて活かしてはいない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には御家族、自治会長、民生委員の参加があり、頂いたご意見をもとにサービス向上に務めている。運営推進会議は2か月に1回定期的に開催している。	運営推進会議は年6回、構成委員の参加で開催している。事業所の状況や活動などを報告し、出席者からは情報や意見交換が行われていることが議事録から窺える。議事録は詳細に記載されているが、発言者の記載や意見交換後の回答、欠席者への議事録配布はこれからである。	議事録に発言者の記載や質問や提案に対してのその後の展開を記載することで運営推進会議で話し合った内容を運営に活かすことを期待したい。また、次回会議の出席に支障がないよう、欠席者への議事録配布も望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	密に連絡を取るようなことはしていないが、運営推進会議等に参加してもらっている。	普段から行政窓口に行ったり、集団指導や行政主催の研修に参加している。又、担当部署の訪問もある。認知症サポートの実習や介護相談員の受入れ、包括支援センターへ講師を依頼し、内部研修を行うなど協力・連携に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1回身体拘束についての勉強会を行っている。離設行為等考えられる場合、基本一緒に出かけるが人員体制上やむなく施錠する事がある。どうしても時は御家族に了承を得て同意書を頂いている。	事業所は身体拘束廃止の取組みとして、虐待防止委員会や業務委員会で毎月検討し、内部研修にて職員へ周知徹底を図っている。管理者・職員は、気になることをその場で注意し、職員ミーティングで確認している。現在、ユニット間の協力での施錠は無く、拘束の無い支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回虐待についての勉強会を行っている。月に1回虐待防止委員会を開き、虐待や不適切な行為が見過ごされないよう努めている。		

グループホーム和ごころ(いろり棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常、自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会は持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、不安や問題点を尋ね説明を行い理解・納得を図っている。又、面会時等に不安や疑問について お尋ねがあった際には都度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御意見箱を設置している。又、面会時等 状況報告と共に御要望等尋ねるようにしている。契約時に第三者機関の記載された書類をお渡ししている。	家族の苦情処理・手順については、明文化し契約時に説明し同意の署名を得ている。家族に事業所便り「和暦通信」を発行し、毎月の利用者の状況を知らせている。家族の意見は面会時に聞くことが多く、話し易い雰囲気作りに努めている。家族の意見で職員の顔写真と名前を掲示するなど反映した事例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員の意見や提案等がある時は部課長会議に上げる様にしている。月1回のユニットミーティング等で提案等聞く機会を設けている。	職員は、月1回のミーティングや年2回の施設長との面談時、毎日の支援の中で意見、要望、提案している。事業所では職員が参加する6つの委員会があり、職員は各委員会で積極的に提案している。管理者は必要に応じて職員面談を行い、希望休暇や定年後も雇用を更新するなど働き易い職場作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員各個人の努力や実績・勤務状態を把握している。各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備について検討はしてくれている模様。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回の内部勉強会を行っている。又、外部の研修案内も回覧している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に属している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居面談時、聞き取りを行っている。又、入居直後は特に声掛けを多くし本人の意思をくみ取る様務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時に困っている事や不安な事・要望等尋ね、入居後は面会時等積極的に話しかけ関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談・入居面談時に必要としている支援を見極めている。又、要望も聞いている。他のサービス利用を含めたたいおうは行っていない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの中の作業を一緒に行ったり、教えてもらったりし、関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際の近況報告を行ったり御家族より好きな事・楽しみな事等、情報提供してもらっている。又、居室で過ごされる際は家族だけの時間を大切にしてもらうよう気配りしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会話の中よりご家屋の話聞き、話題にしている。馴染みの病院や教会に行き関係が継続できるよう努めている。	家族や同級生、住んでいた地域の住民の訪問がある。月2回、神父の訪問がある利用者もいる。利用者は、友人の協力で同窓会へ出掛けたり、家族と一緒に結婚式や墓参り、法事へ出掛けている。又、葬式へ参列する利用者を空港まで職員が送迎するなど、馴染みの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフは入居者同士の関係を把握しており、孤立しないよう努めている。又、一緒に作業をしたりレクリエーション等行う事で入居者同士の関わり合いの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もこれまでの関係性を大切にしながら必要に応じ本人・家族の経過をフォローする準備は出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話の中からくみ取る様務めている。又、希望や意向を聞いたら生活記録に記入しスタッフ全員で共有し出来るだけ本人にとって良い方法を検討するようにしている。	職員は利用者との1対1の会話や利用者同士の雑談の中から、本人の思いや意向を汲み取っている。表出が困難な利用者は表情や仕草で判断したり、生活歴を家族に尋ね、利用者本位に検討している。汲み取った思いは生活記録へ記載し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時や会話の中から情報を得よう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各入居者の1日の過ごし方等把握に務め、その方らしく過ごせる様支援している。又、バイタルチェックを始め顔色・表情等観察し現状把握に務めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時に状況説明・月1回和暦通信・不調があれば電話報告を行っている。又この際、意見や要望を聞きミーティングを開いている。現状に即した介護計画を作成している。	利用開始時の暫定プランは1ヶ月で見直している。家族の要望は見直し時に電話や面会時等に聞き取り、計画は同意を得ている。毎月の職員ミーティングや3ヶ月毎のケアカンファレンス、モニタリングを行い、現状に沿って計画を作成し、職員は計画に沿った支援に努めている。ただし、介護計画と記録の連動が分かりづらい。	介護計画との連動が分かり易い記録は、次の計画作成への反映や見直し時のポイントなどに活用するためにも工夫・取組みが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や申し送りを中心に情報を共有している。ミーティングで気づきや工夫を話し合い、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の本人の言動や表情・家族の状況・その時々々のニーズに対応できるよう、柔軟な支援を心がけている。		

グループホーム和ごころ(いろり棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来る様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は本人・家族の希望を大切にしている。職員や家族対応にて定期的な受診を行い、緊急時には電話や往診により指示を頂き適切な医療が受けられるよう支援している。	かかりつけ医は家族の意向に沿って決めている。受診は職員や家族が付き添い、週3回協力医療機関の往診がある。又、週1回、訪問看護師が訪れている。歯科の往診もあり、受診後の情報は家族と事業所が互いに報告し、介護記録に記載して職員間で共有している。夜間の急変時の対応を職員に周知している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、職場内に看護師は不在である。毎週金曜日 医療連携時に報告を行い適切な受診や看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、早期に退院できるよう安心して治療できるよう病院関係者との情報交換や相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に一度、重度化した場合と終末期の在り方について話をしている。又、状況に応じ段階をふみ終末期について家族・主治医を交えカンファレンスを行っている。	今年度は2件の看取り事例がある。「重度化対応、看取り介護の理念と指針」を明文化し、契約時に家族へ説明している。家族とは状態の変化に伴って、その都度話し合い、確認の同意書を得ている。職員は外部研修を受け、事例毎にデスカンファレンスを行い、次の支援に活かしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の救急救命講習を受講している。応急手当の対応についてはマニュアルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	1か月に1回消防訓練を行っている。火災想定等の訓練だけで地震・水害は想定、訓練は行っていない。	年1回、消防署立会いの下、夜間想定避難訓練を実施し、毎月、自主訓練を行い、元栓やコンセント等の自主点検を行っている。又、消防署で救急救命法を受講している。備蓄や非常持ち出し品を整備している。ただし、毎月の自主訓練の多くは図上訓練であり、自然災害の避難訓練の実施はこれからである。	自主訓練の避難訓練は、図上だけでなく実践の回数増と自然災害の避難訓練の実施を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩とし、人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を行っている。	接遇についての内部研修を実施し、職員は利用者への排泄誘導時の声掛けなど人格や尊厳を損なわないよう、心掛けている。個人情報の取り扱いには契約時に家族へ説明し、同意の署名を得ている。又、職員は入社時に守秘義務の誓約書を提出している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛け時、いくつかの選択の余地を含ませている。選択肢がある事で自己決定が出来る様に務めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望があれば実行できるように支援している。(可能な限り)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己にてメイクや洋服を選ぶ事が出来る人は本人の意思に任せている。 入浴時には着る服を選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の摂取状況に応じた食事作りや器の使用等、気をつけている。好き嫌いも無理強いつせず代食で対応している。盛り付けや後片付けを入居者に手伝ってもらっている。	ユニット毎に利用者の希望を聞きながら献立を立て、食事サービス委員会で毎月献立を検討している。利用者と一緒に買い物に行き、旬の食材を見つけ、献立を変更することもある。嗜好や食べ易い形状で提供し、利用者は出来ることを手伝っている。3ユニット合同でのソーメン流しや行事食、外食など取り入れ、食事を楽しくするよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人に合わせた食器等で量を確保している。食事摂取・飲水量チェックを行っており必要に応じ記録に残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後、声かけし口腔ケアを促し、自己にて行えない入居者についてはスタッフで対応している。		

グループホーム和ごころ(いろり棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自のパターンの把握に務めている。トイレでの排泄を目標にオムツ使用を軽減できるように支援している。	排泄チェック表を付け、利用者の排泄リズムを把握し、声を掛け誘導している。職員は排泄の自立支援を理解し、日中はトイレでの座位排泄を基本に支援している。職員ミーティングで排泄状況や支援方法を検討し、個人記録へ記載し共有している。支援の継続がパッド類の減少に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の及ぼす影響を理解している。主治医と相談しながら服薬等で排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日10時～16時半まで入浴可能である。午前・午後 大まかではあるが希望をとりその方に合った時間帯に入浴して頂いている。	入浴は毎日湯を沸かし、利用者の状態や気分に対応し、希望に応じて週2回以上の入浴を支援している。車椅子の利用者は状態に応じて、職員が2人介助で湯船に浸かったり、シャワー浴にて支援している。好みのシャンプーや石鹸を使用したり、入浴剤、柚子湯、菖蒲湯など入浴を楽しむ支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様が疲れた様子や傾眠がちの時は居室にて休んでもらう様 気をつけて声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報ファイルを個別に管理 薬変更時は申し送りに加え特に注意して見守り変化があれば記録に残したり、Drへ報告・相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自に合わせた役割を提供し自分の仕事だと認識してもらっている。 日中のレクリエーションや軽作業をして頂き余暇を過ごしてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	各個人の外出支援は出来ておらず、ほぼ病院の外出になっている。 行事でドライブや外食の機会は実行している。	天気の良い日は、車椅子の利用者も一緒に散歩やバルコニーで日光浴や外気浴を楽しんでいる。初詣や季節の花見ドライブでは、車椅子の利用者も一緒に、小学校へ弁当を持って花見をするなど支援している。食材の買い出し以外にも、希望に応じて一緒に近くのスーパーマーケットへ買い物へ出掛け、戸外へ出るよう支援に努めている。	

グループホーム和ごころ(いろり棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スタッフは本人がお金を持つ事の大切さを理解しているが施設にお金を預かり外出時に必要な応じ使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している入居者もおり要求があれば電話の支援を行っている。 手紙のやり取りの支援は行っていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り付けを行い季節に応じ窓を開けたりし、季節を感じてもらっている。 居室の電気を明るいものに交換した。	リビングと繋がるキッチンの調理の音や匂いが利用者の五感を刺激し、生活を感じることができ、利用者が思い思いの場所で寛げるよう、テーブルやソファを配している。採光は程よく、清掃は職員が毎朝行っており、トイレも汚染時は都度掃除している。空調も管理し、利用者にとって居心地よい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	状況に応じてリビングのテーブル席の席替えを行っている。 共用空間に1人になれる空間はないが各々自由に過ごされて入り。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族に使い慣れた物や好みのもの、写真やぬいぐるみを持ってきて頂いて殺風景な居室にならないようにしている。	利用者は家具や仏壇、ぬいぐるみなど馴染みの物を持ち込み、家族の写真や趣味の作品などで落ち着いた居室となっている。又、馴染みの和服を飾ったり、生花を生けている個性的な居室もある。掃除は毎朝職員が行っているが、一緒に掃除する利用者もいる。職員が空調管理し、居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線上に手すりを付け介助なしで歩行できる方には自由に過ごしてもらっている。 御自分で出来る事は見守りで行ってもらいできるだけ介助ではなく“援助”を行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270103999		
法人名	株式会社 咲都		
事業所名	グループホーム 和ごころ(ふうりん棟)		
所在地	長崎市白鳥町2-26		
自己評価作成日	平成27年12月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	-----------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様と会話する事を心がけ、安心し笑顔で生活できるよう支援している。 ・毎月勉強会を開き、職員が講師として内部勉強会を企画したり外部勉強会に参加し、介護の知識・技術を身につけて得ている。 ・スタッフ一丸となり看取りに取り組み、家族様と一緒に最期まで寄り添う事が出来た。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当直室に掲示し出勤時、各自唱和を行い業務に入っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加している。 近隣の病院・商店を利用し交流を図っている。 夏祭りに参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を行っているが、地域に向けての情報発信はしていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の開催を行っている。最近では意見も多く出して頂けている為、サービス向上に繋げる事が出来ると思う。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ参加して頂き貴重な意見を出して頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は原則しないように取り組んでいる。その他の身体拘束もしないよう取り組んでいるがどうしても場合は毎月御家族様からの了承を得て同意書にサインを頂いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を行い、スタッフ全員が虐待防止に務めている。 虐待防止委員会で虐待に繋がる案件を出し合い話し合いを行っている。		

グループホーム和ごころ(ふうりん棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフ全員が認識するまでには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、十分な説明を行っている。入居後も不安や疑問があった場合はその都度説明し対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話で家族様からの意見や要望を聞いている。その上でケアプランや運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開く部課長会議、リーダー会議、ユニット会議で議題にあげ話し合いを行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チャレンジシートとチェックシートを記入し活用し職場環境、条件の整備に務めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	チャレンジシートの活用、内外部の勉強会に極力参加する様 呼びかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互訪問は行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居面談時に聞き取りを行っている。入居後も本人様、ご家族様と会話を多く持ち情報を得るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居面談時に聞き取りを行っている。面会時等、話しやすい様 笑顔で話しかける様 心掛け多く会話する様務めている。月1回お便りに近況報告を書き報告している。。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時や入居の際の面談を通し必要な介護、支援に務める様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常のお手伝い、レクリエーション、本人様の得意なそばん等を提供し時間や場所を提供し関係を築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	満開時、入居者様を交え会話を楽しみ良い関係を築く様務めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方と交流する場を提供している。 (居室やソファと一緒に座って頂く等)		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り話題を提供している。スタッフと一緒に歌を歌ったり、じゃんけんゲームをしたりして全員で参加して頂けるよう企画を考えた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の場合は面会に行く等 状態把握に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から希望や意向を把握できるように努めている。ご家屋様からの情報も参考にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活史や生活表、好き嫌い表等のプリントを基に聞き取りを行い把握をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ全員で入居者様1人1人現状把握に務め有する力を活かせるよう支援を心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成する前に御本人様や御家族様からの意向、要望を聞き毎月1回のミーティング時に話し合い、より良い介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の生活記録及び送りノートを活用しスタッフ全員で共有しケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日申し送りを行い入居者様の状態、状況を把握し、より良いサービスを提供できるよう取り組んでいる。		

グループホーム和ごころ(ふうりん棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りごとに参加しているのみである。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医や受診先は御本人様、ご家族様の希望を尊重している。受診はスタッフが支援し、かかりつけ医との連携を密にし往診も含め適切な医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携をとり週1回看護師が来設する事で看護師へ報告・相談をし助言をもらっている為、入居者が適切な受診や看護を受けられる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリーの作成、情報提供を行っている。入院中も面会に行き情報交換を行い支援がスムーズに行えるよう協力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に十分説明を行っている。状態が変化した場合、その都度御家族様との話し合いの場を持ち納得して頂き、より良い看取りができた。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回消防署で救急救命講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	毎月の消防訓練と消防署立会いの避難訓練を行っている。避難訓練には入居者様も参加して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人のプライバシーを尊重し決して否定せず言葉かけや対応に注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床時間や入浴等御本人様の希望に合わせて対応している。又、ご本人様の事故決定が出来るよう声かけし働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特変があった時にはスタッフのペースになってしまいがちだが普段は自分で出来る事は出来るだけご自身でやって頂く様に時間に余裕を持ち対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問カットの利用を行い日常的な整容に注意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のある食材を使い入居者様と共に食事作りを行ったり時には入居者様と一緒にメニューを見て出前をとる事もある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては野菜を多く摂って頂く事を考え水分量のチェックについてはチェック表に各入居者様の飲水量を時間毎に記入し1日の水分量の確保に務めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後高つくケアを徹底している。義歯の方は夜間ポリデント消毒を行っている。口腔ケアセットは週1回消毒を行っている。		

グループホーム和ごころ(ふうりん棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し定期的なトイレ誘導や声掛けを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給やテレビ体操など軽い運動を促すよう努めている。又、主治医と相談し排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の希望があれば可能な限り対応している。入浴の拒否がある場合は時間をおいたりスタッフが交代し声をかけるようにしているが無理強いはいはしないよう心がけている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	シーツ汚染時等速やかに交換しベッドを清潔にし、気持ちよく眠れる様支援している。臥床時間を決めておらず個々のタイミングで休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を個別にファイルしている。薬の変更があれば送りノートに記入しスタッフ全員で把握する様務めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	声掛けにて食器拭き、テーブル拭き、調理の手伝い、洗濯たたみ、ぞうきん縫い等手伝って頂いている。又、最近では自らリビング内を掃除して下さる入居者もいる。季節ごとの行事を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	声かけし買い物ごとドライブに出かけている。(食材) 季節的に花見や初詣等企画し実施している。		

グループホーム和ごころ(ふうりん棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日用品や嗜好品等、事前に御家族様に了承を得て買い物に同行し購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、自ら電話をかけたたり手紙のやり取りをされる入居者はいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、リビング、廊下等 季節感が出るよう飾り付けをしたり写真を廊下に飾り御家族様の来設時に見て頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	古今も気に入った場所(居室、r居家具、ソファー)で過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ち込んで頂いている。本人が希望した物は御家族へ相談し持ってきて頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやスロープの利用で出来るだけ自立した生活が送れる様支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270103999		
法人名	株式会社 咲都		
事業所名	グループホーム 和ごころ(竹とんぼ棟)		
所在地	長崎市白鳥町2-26		
自己評価作成日	平成28年1月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	-----------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・会話を多く持ち、入居者が安心して笑顔で生活できるよう支援している。 ・色々と制限をせず、家にいる時と変わらないよう自由に生活して頂いている。 ・家族・医療・スタッフが連絡を密にとり、全員で入居者の暮らしを支えていくよう努めている。 ・毎月内部勉強会を開き、スタッフのスキルアップに務めている。 ・毎月虐待防止委員会を開き 虐待や不適切なケアの根絶に努めている。 ・施設での看取りケアを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当直室に掲示し業務に入る前に唱和するよう努めているが、最近では疎かになっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し体育部副部長や評議委員を務め、防犯連絡所として地域活動に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けては発信していない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者や御家族、自治会、民生委員、市関係者に参加して頂き事業所からの報告事だけではなく参加者から御意見を頂き、その後フロアミーティングや部課長会議等で報告しサービスの向上に務めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターとは運営推進会議に出席して頂いたり内部勉強会で講師のお願い等しているが、それ以外に特に連絡を密にとるような事はしていない。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	離設の恐れがあったり、受診等でスタッフが手薄の場合と夜間は玄関の施錠を行っているが基本的に身体拘束は行わない取り組みを行っている。センサーマットに関しては家族から同意書を頂き使用している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会にて身体拘束や虐待について学ぶ機会を設けている。虐待防止委員会を月1回開き不適切ケアの洗い出しを行い外部委員にも意見を頂き虐待の防止に務めている。		

グループホーム和ごころ(竹とんぼ棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	2014年10月に地域宝庫克支援センターの社会福祉士により講義をして頂いた。2015年度は2月に予定している。実際、成年後見人制度を利用している入居者もおり今後もっと勉強し理解が必要だと感じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時や契約時に説明を行い納得を得ている。その後も質問があればその都度納得のいくまで説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族から頂いた要望や意見はスタッフ間で共有しユニットミーティング等で検討し改善に務めている。外部者へ表せる機会は特別設けていないが運営推進会議等では報告をしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ユニットミーティングを行い、職員からの意見や提案を聞き、部課長会議で議題として提起し反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チャレンジシートを活用し、目標への取り組み、達成度、勤務態度等を把握し職場環境・条件の整備に務めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部勉強会においては基本 夜勤者以外は全員参加。外部勉強会については案内を回覧し、希望があれば優先的に参加できるよう勤務の調整や受講費の補助を行っている。又、スタッフの力量に合わせ参加の指示を出す事もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に所属し、地区会への参加、勉強会や交流会への参加を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で困っている事、不安な事、要望等聞き安心してホームでの生活が送れる様務めている。入居後も会話を多く持ち、関係づくりに務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時に御家族の困っている事、不安な事、要望や意見を聞きサービスを導入している。又、入居後も話しやすい雰囲気、環境に注意し関係づくりに務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人と御家族がまず望んでいる事、必要としている事を見極め、支援できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者を介護される側の立場に置かず、コミュニケーションを図り御本人が出来る事・一緒にできる事を見つけ、一緒に行いながら関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1度 和暦通信にて状況を報告したり、変化があった場合はすぐに連絡を取り合い共に御本人様を支えていける関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なかなか馴染みの場所に出向く事は難しいが馴染みの方の面会は交流の場の提供等で支援している。病院はできるだけい今まで通っていた馴染みのかかりつけ医を継続利用している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションやお茶の時間等で交流を図っている。入居者同士と一緒に廊下を散歩したりベンチに座って談笑している事がよくある。又、体調の悪い入居者に対し優しく声をかける場面もよく見かける。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の施設や病院への面会、死亡時はお通夜、葬儀への参列、初盆のお参り等させて頂き、これまでの関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人様に要望を聞き把握に努めている。御本人様から聞き取れない時は御家族へ相談したり御家族の意向を踏まえスタッフで検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談時に聞き取りを行い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居相談時の家族からの聞き取りを基に入居後の生活の中から過ごし方や心身の状況、残存能力の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族や御本人様の意見を聞く様 努めている。月1回のミーティングで検討し、それぞれの意見やアイデアを反映し介護計画を作っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日申し送りを行い日々の様子や情報を共有し、その方の生活状況を記録に残し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度御本人様、御家族様の要望を聞き、柔軟に対応する様努めている。		

グループホーム和ごころ(竹とんぼ棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源としては介護相談員の来設や運営推進会議後に民生委員が面会したり地域のお祭りへ出かけたり、子供みこしや精霊船の見物をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来るだけ入居前からかかって行った病院を受診するよう努め、事業所と医療機関との関係を築きながら適切な医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師は常駐しておらず週1回訪問看護ステーションとの医療連携をとっている。気づきや情報は伝え相談し入居者が適切な受診・看護を受けられるよう支援している。訪看に限らず かかりつけの病医院の看護師も同様。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時介護サマリー等の情報提供を行っている。入院中は御家族や病院関係者と連絡をとり、病状の把握に務め早期に退院できるよう関係づくりに努めている。退院時は情報提供書、看護サマリー、リハサマリー等を頂き退院後の支援に役立てている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に説明している。重度化した場合はその都度説明を行ったり主治医から病状説明を受けたり、カンファレンスを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	1年に1回 消防署での普通救急救命講習を受けている。内部勉強会等で急変時の対応等を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	月1回火災を想定した避難訓練を行っている。しかし風水害や地震の訓練は行っていない。又、火災等を未然に防ぐために毎月自主点検を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の人格を尊重し誇りやプライバシーを侵害しないよう注意し言葉かけや対応を行っている。その方を否定しないよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様が自己決定できるよう、いくつか選択肢を用意して言葉かけを行うよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や入浴等できるだけ御本人の希望に沿って、ご本人のペースに合わせて対応するよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来られる方にはその日切る洋服選びや整容を任せている。男性では朝からひげそりを行うなど身だしなみに気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	刺身が嫌いな人や納豆が食べれない人等には代食を用意したりマメの筋取りやもやしの根切り等一緒に行ったり合同レクで一緒に食事を作る事も行っている。食事前後のテーブル拭きや食器拭き等もできる限り手伝ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えたメニュー作りを心掛け、食事や飲水の量についてはチェックを行い1日量を確保している。体調によっては白飯をお粥にしたりの対応も行い、細かくグラム数を図る等の対応も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを徹底している。うがいが出来ない方には口腔洗浄ジェルを使う等の対応をしている。		

グループホーム和ごころ(竹とんぼ棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し個々のパターンの把握に務め、定期的な時間誘導や声掛けを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と相談し服薬での調整を行ったり、テレビ体操や廊下での歩行運動を行ったり水分摂取や食物繊維の摂取等に気をつけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴を心がけている。拒否がある場合はスタッフを代えて声をかけてみたり時間をおいて再度声をかける等の対応をし、決して無理強いしないよう努めている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や起床時間を決めず、個々のパターンやタイミング、習慣に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を個別にファイルしている。特に新規処方の場合は目的・副作用・用法・要領を把握し服用後の状態変化がないか観察に務めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれに合った軽作業を提供したり季節ごとの行事を提供し楽しんで生活できるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	受診以外で買い物や散歩で出かけられるよう声をかけたり希望があれば、出来る限り対応できるよう努めている。花見やドライブ、外食等も実施している。家族対応で出かけられる入居者もいる。		

グループホーム和ごころ(竹とんぼ棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人的にお金を持っている入居者は少なく、持たせる場合は失くしてもいい位の額でお願いしている。又、必要時は事前に預かっているお金で買い物を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在電話や手紙のやり取りをしている入居者はおらず、希望があれば支援したいと思っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下には季節ごとの行事の写真を貼りだしたり、壁面飾りを行い季節感を出し、玄関には季節の花を飾るよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになりたい時は居室を利用して頂いている。リビングのテーブル席や廊下の長椅子等で日々、思い思いに過ごしておられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物、馴染みの物を持ち込んで頂き居心地良く過ごして頂いている。できるだけ殺風景な部屋にならないよう務め、御家族にも協力して頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ手すりを使って歩いたり見守りで車椅子の自操を行ったり自分で出来る事は極力手を出しすぎないように努め、自立した生活へ向けての援助を行っている。		